

## VI. 参考資料

### 1 全国事例調査 収集事例一覧

主体	企画・イベント・取組名	理念・目的	開始年	推進主体	概要
	HAKOSHOP	商業教育	2008年	函館商業高校	流通ビジネス科の3学年が課題研究の授業として履修。商品を仕入れた後、商品開発をしてメーカーに製造を依頼して販売し、学校をPRする活動を継続的に実施。地域課題の把握、地域への貢献も重視。
	商業高校の課題研究	商業教育	(2014年)	千葉県立銚子商業高校	銚子電鉄と協力し、クラウドファンディング集めた500万円により脱線事故で故障した銚子電鉄の車両を修理。
	岐阜県可児高校	キャリア教育・地元定着促進	2013年	学校と地域をつなぐ団体であるNPO 緑塾がコーディネート	医療・福祉・環境などの分野で行政担当者や専門家から話を聞いたり、地域への関わりをテーマに大人と議論したりするキャリア教育。
	静岡県富士市立高校	キャリア教育	(2012年)	静岡県富士市立高校	2年生が住民にインタビューしたり、市内を歩き回ったりして、災害時に危険な場所や廃棄物の不法投棄問題などを把握し、解決策を考えるキャリア教育。
	まちづくり甲子園 (Glocal Olympic)	地域問題の解決	(2015年)	高根県立隠岐島前高校	実際に島前地区が抱える地域問題を、普段交流のない他校の生徒同士で共同しながら限られた時間で探求し、解決策を導き出す。高校生からの提案は地域に役立てるとともに、この経験を各学生の地元にも持ち帰ってもらう。
	高校部活動	地域の課題解決	不明	新潟県立海洋高校食品研究部	魚醤「最後の一滴」を開発。毎年秋に大量に遡上してくるものの臭みが強く食用には向かないと採卵後に廃棄されていたサケを丸ごと使い、魚醤にする。派生製品のボン酢とめんつゆも発売。
	同上	同上	不明	島前高校ヒトツナギ部	高校生目線での観光振興の取組で、毎夏、島内外の中高生が10人ずつ隠岐の島を4泊5日で巡る旅を企画・運営。
	チャレンジインターンシップ事業	地域貢献・社会教育	不明	福島県が行うもので、ふくしまNPOネットワークセンターが受託	高校生や大学生が、福島で活動するNPOで1週間のインターンを行い、東日本大震災で被災した福島県の復興に貢献することを応援。またインターンを通して参加した若者自身が学び、人間的に成長する機会となることも目的とする。
	2017隠岐の島町高校生ビジネスプランコンテスト	地域活性化	2011年	隠岐の島町(島根県)	地域の企業や行政担当者等に地域活性化のヒントを提供することを目的に斬新かつ柔軟で、創造性あふれる次代を担う地元高校生から次のプランを募集。町では、提案いただいたプランが実現できるようにお手伝いする。
	高梁川流域高校生ビジネスプランコンテスト	人材育成	2017年	倉敷市(高梁川流域連携中枢都市圏事業として実施)	応募資格は、高梁川流域圏(新見市・高梁市・総社市・早島町・倉敷市・矢掛町・井原市・浅口市・笠岡市)に所在する高校学校(特別支援学校高等部を含む)の生徒からなるグループ又は個人。ビジネスプランの作成を通じて、高校生が地域の課題や経済のしくみを理解する...未来の人材育成を目指す。
	長久手市学生まちづくり甲子園	総合計画の策定	2017年	長久手市長公室経営企画課	まちづくりの指針となる次期総合計画に、まちの将来を担う若者のアイデアを反映させるためのまちづくりアイデアコンテスト。参加資格は長久手市在住もしくは在学の高校生・大学生。
	とちぎアントレプレナー・コンテスト	起業家教育	2013年	栃木県	栃木県民から寄せられた学生に考えてほしい「問題や課題」を公開し、高校生～大学生の県内学生が解決アイデアを見つけてエントリーする。自分で「問題や課題」を発見してエントリーも可。
	ご当地! 絶品うまいもん甲子園	地域活性化・社会教育	2012年	農林水産省、一般社団法人全国食の甲子園協会、農林水産省後援	地域食材を使用したアイデアメニューを競う料理コンテストを中心に、体験型課題授業や商品化企画などを通じ高校生の夢の舞台を創造。農林水産業を取り巻く厳しい環境の中、それを担っていく高校お正の夢や希望をサポート。
	ご当地グルメアイデア料理コンテスト	地域活性化	2012年	八街市	産業まつりにてアイデア料理コンテスト・高校生の部があり、八街市特産の野菜を使った主食・主菜・副菜やお菓子等のオリジナル料理を募集。農業高校の一部で取組有。
	商業系高校生委が挑む! イノベーターへの道 未来のイノベーターを育成チャレンジ講座	人材育成	(2010年)	大阪市ビジネス教育推進委員会	推進委員会とは、大阪市内の商業系高校が集まり、地域連携や高大接続などの取り組みを行う組織。商業系高校生が商品開発のお手伝いをする、商品のパッケージデザインや販売促進等を考え、一緒に商品の販売を行う、学校独自の文化祭などのイベントや販売実習で商品販売を行う、など。
	高校生のインターンシップ	キャリア教育	不明	新潟県地域キャリア教育支援協議会	地域参画型のキャリア教育を推進し、地域への愛着心や社会に貢献する意識を醸成。
	かながわ 高校生チャレンジボランティア	高校生のボランティア	不明	神奈川県教育局指導部 高校教育課	神奈川県では平成18年度からすべての県立高校で「地域貢献活動」を学校の教育活動に位置づけている。「公私共同ボランティア事業」の取組として、10月22日を「地域貢献デー」とし神奈川県内高校が地域貢献活動に取り組む。

	高校生ふるさと貢献活動事業～トライやる・ワーク～	地域への愛着醸成	2005年	兵庫県教育委員会事務局高校教育課	平成17年度から実施している高校生地域貢献事業～トライやる・ワーク～で各校が育ててきた取組を発展させ、ふるさとの魅力を創出し、ふるさとを誇りに思うとともに、ふるさとを愛する心をはぐくむための取組を展開。学校独自の特色ある活動内容や成果を発表する機会を与え、3年間を通して生徒が意識を深化し、主体的な行動(参画)ができるよう支援。
	ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト	地域課題解決・社会教育	2014年	主催：福島県教育委員会・一般社団法人ふくしま学びのネットワーク、共催：福島大学アドミッションセンター	社会貢献の内容は、ボランティア・復興・国際交流・まちおこし・製品開発等、高校からの応募、学校の枠をこえたグループからの応募等あり。活動内容の独自性、実効性、継続性、発信力、生徒の主体性などを総合的に評価。
	高校生地域創造サミット	社会教育	不明	三重県教育委員会	県内外の高校生約90人が南伊勢町に集い、フィールドワークやディスカッションを行い、南伊勢町の地域課題に対して、高校生ならではの発想による「地域を活かした課題解決」を検討し、南伊勢町に提言する活動を行います。
	岡山県高校生社会貢献活動推進事業事例集	キャリア教育	(2010年)	岡山県教育委員会高校教育課	心豊かにたくましく、「未来を拓く」人材の育成を基本目標に平成24年は5校の指定校がボランティア活動(幼稚園や清掃など)を体験させている。
	高校生地域貢献事業	キャリア教育	(2010年)	青森県教育委員会	自分たちの学校の特色を活かして地域の活性化に取り組む。県内7校が推進校として指定。
	商い甲子園(全国高等学校商い選手権大会)	商業教育	2008年	高知県安芸市	高校生による商い力を競う体験の場を提供すると同時に、参加者の各々の地域の活性化を願って開催。
	特定非営利法人あおもり若者プロジェクト クリエイト クリエイトまち塾	社会教育	2009年	2014年にNPO法人化	2009年に当時高校2年生だった久保田さんが創立。隠れた観光資源を掘り起こし、市民の意識を高めようと仲間とともに活動をスタート。高校生が積極的に地域の方々と関わっていく「一人称のまちづくり」で次第に地域の大人たちも参加。活動を通じて高校生の主体性・創造性を育む「教育」もプラスしている。
	被災地の放課後学校 コラボ・スクール	復興支援・人材育成	不明	NPO法人カタリバ	被災した子供たちが安心して学べる場を作ることで、これからの東北復興を担うリーダーを育てる。
	マイプロジェクト	社会教育	2013年	NPO法人カタリバ	高校生のための課題解決型学習プログラム。地域や身の回りの課題に気づき、その解決のためにプロジェクトに取り組む。合宿や全国アワードあり。
	地域でつながるワカモノ×NPOインターンシッププログラム	人材育成	不明	認定NPO法人 藤沢市民活動推進機構	高校生やワカモノを地域のNPOや市民活動団体とつなぎ、一定期間「団体の一員」として社会や地域の課題解決に取り組む機会を設ける。地域とのつながりが生まれることで、将来、地域の市民活動を担う人材が育成され、また若者の参加によってNPO等の組織基盤が強化されることを期待。
	まじプロ～高校生起業体験プログラム～	社会教育	2013年	NPO法人 Curiosity(活動拠点：文京区)	高校生向けの社会体験プログラム。高校生が支援する社会問題を選び、チャリティ資金の獲得に向けたイベントや物販などの企画。この活動で得た収益は自ら希望したNPO等へ寄付する。
	楽天IT学校 楽天IT学校甲子園	CSR	2008年	楽天	高校生を対象としたプロボノ・プログラム。学校・地域企業・楽天の3者で取り組むEコマースの実践学習。商業高校の授業「電子商取引」とも整合しながら、Eコマースの実践的な授業を行う。
	YOUNG JAPAN ACTION 浅田真央×住友生命2016	CSR	(2013年)	住友生命保険相互会社	多くの若者が社会貢献活動に取り組む機会を創出し、社会的課題を解決するアクションを支援。2016年度から10代の若者も参加可能に。
	地域密着プロジェクト「ファミマものづくりアカデミー」	CSR	2015年	ファミリーマート	「ファミマものづくりアカデミー」とは、ファミリーマートの商品開発チームが学校等で講義し、生徒の皆さんと共に商品開発から発売まで進める取り組み、アイデア出しやマーケティングも含め、商品開発の基礎を実際に体験することで、小売業、製造業、流通業について学んでもらいます。
	学P沖縄リーグ2017	キャリア教育	2007年	沖縄ファミリーマート	沖縄県内大学の学生が、オリジナル商品の開発と販売に取り組む実践的インターンシッププログラム。
	Youth Connection @ STARBUCKS	CSR	不明	スターバックス	各実施店舗2～4人の高校生(高等専門学校生を含む)を募集。グループを結成して、その地域に喜んでもらえる企画を立てる。学校でもアルバイトでもない”高校生プログラム”。
	高校生ビジネスグランプリ	起業家教育	2013年	日本政策金融公庫	高校生ならではの自由な発想や想像力を活かしたビジネスプランを募集。優秀なプランを表彰。
	高校生ビジネスプランコンテスト～未来開発アイデアコンテスト～	起業家教育	2016年	日本経済大学	人の夢・想い・情熱をカタチにすることを応援するために高校生を対象とした未来開発アイデアを公募。(1) オリジナリティ(独創性)、(2) サステナビリティ(持続性)、(3) 実現可能性、(4) 社会への貢献・効果を審査。

40億人のためのビジネスアイデアコンテスト	起業家教育	2013年	アイ・シー・ネット http://www.icnet.co.jp/	開発途上国の社会課題をビジネスを通して解決しようとする企業家のためのビジネスアイデアコンテスト。＜高校生部門＞は学校ごとのエントリーのみ受付。エントリー校には、合計6回、各校でバックキャスト型ワークショップを実施し、ビジネスアイデアの創出を支援する。
全国高等学校ビジネスアイデア甲子園	起業家教育	2002年	大阪商業大学	「世に役立つ人物の養成」を建学の理念とする大阪商業大学が社会の変化に柔軟に対応し、自立した人材の育成を目的とした「起業教育」の実践の場として、全国の高校生に新しい商品やサービスに関するアイデアを募集するコンテスト。
KGビジネスプランコンテスト2017	起業家教育	2005年	関西学院大学 池田泉州銀行	学生ならではの感性や、斬新なアイデアで練られたビジネスプランを大学部門、高校部門、中学校部門で競い合う。
ビジネスプラン・コンテスト	起業家教育	2013年	福山学園大学	応募は愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、富山県、石川県、福井県に所在する大学または高等学校の在籍者。「大学生の部」と「高校生の部」で、別々に審査をする。ビジネスプランは「ユニークさ」、「事業化可能性」、「企画書作成能力」によって審査する。
キャリア甲子園	起業家教育	2014年	株式会社マイナビが運営するMY FUTURE CAMPUS主催	高校生がチームを組んで企業からのテーマに挑戦するビジネスアイデアコンテスト。協賛企業がテーマを出題し、学生はチームを組み、好きな企業テーマにエントリーする。書類審査、プレゼン動画審査、準決勝と戦っていき、企業代表チームを目指す。自分の意思で参加する「個人応募」と、高校のプログラムで参加する「学校応募」の2種類のエントリー方法が用意されている。
常葉大学ビジネスチャレンジ高校生ビジネスプランコンテスト	起業家教育	2012年	常葉大学経営学部	2013年度に新設された「常葉大学経営学部」発足を機に、地域を担う次世代の優れた人材を育成することを目的としたもので、高校生を対象にビジネス及び地域貢献プランを募集。物づくり部門/店づくり部門/街おこし部門でエントリーする。
徳島県高校生ビジネスアイデアコンテスト	起業家教育	2010年	四国大学等	将来の地域社会を支えることのできる人材の育成を行うため、産学官が連携して豊かな人間力を滋養する教育システムを構築し実践するとともに、若者の斬新なビジネスアイデアを地域社会の発展に活かすことのできる仕組みづくりに取り組む。
英語でチャレンジ！ビジネスアイデアコンテスト	起業家教育	2007年	公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本 (http://www.ja-japan.org/index.html) FedEx Express	提示されるテーマに沿って自分たちで商品/サービスをプランニングし、ターゲット国で販売するための市場参入戦略を競う、グローバルなビジネスアイデアのコンテスト。07年度に韓国、香港、オーストラリアでスタートしてから参加国は毎年拡大し、2017年は参加国が過去最多となり計10ヶ国が参加。海外での市場参入戦略を計画する為、書類選考で提出するビジネスプラン、国内予選・国際大会でのプレゼンテーション、質疑応答は全て英語で行う。日本在住の国内の高校生対象。
中小企業×高校生の取り組みレポート	キャリア教育	(2011年)	愛知県産業人材育成支援センター	子供や若者が勤労観・職業観をしっかりと身に付け、社会人・職業人として生き生きと働いていくために、教育界と産業界の連携を深めたキャリア教育・職業教育を行う。愛知県・愛知県教育委員会では、「ひと育ナビ・あいち」において、インターンシップ、職場体験等のキャリア教育活動を支援する企業・団体の登録・認証を行っている。
地域貢献活動支援事業	地域貢献	(2011年)	横浜市立大学	大学の基本方針の一つが「地域貢献」で、教職員・学生による多様な地域貢献活動を推進。地域が抱える課題を実践的に研究・解決する学生による地域貢献に資する活動を、学内公募し、優秀な企画・活動・提案・プロジェクトに対して助成金を交付。
地域ベンチャー留学	キャリア教育	不明	NPO法人ETIC.	日本全国の挑戦を続ける地域企業やNPOでの新規事業や商品開発に携わる実践型のインターンシッププログラム。アルバイトでもなく、ボランティアでも観光客でもなく、企業の経営者や地域のリーダーの右腕となっても挑戦する。東京ではできない、地域の最前線で挑戦したい学生を募集。大学生対象事業もあり。
学生の手で地域社会の課題解決を目指すプロジェクト	地域課題解決・社会教育	2016年	リクルートマーケティングパートナーズ	長野県塩尻市と共同開催のインターンシップ。(大学生向け)合宿を通して地域課題に現場密着し、地域創生を目指す大学・高校・中学が実際に行う来年度カリキュラムを提案する。提案発表には市町や市教育長、各中学校校長など出席。塩尻市の学校教育を通じた地域課題解決にRMPのまなび事業(スタディサブリ等運営)が着目し開始。

## 2 アンケート調査票

### アンケート調査票（SBP実践関係者用） 【調査票A】

本調査票は、高校生が地域の課題を実際にビジネスの手法を用いて地元自治体や産業界と連携して解決していく取組「地域ビジネス創出事業（SBP：Social Business Project）」を実践している地域や高等学校で、様々なお立場でSBPに取り組む関係者の皆様にご回答いただくものです。

問1 回答者ご本人、またSBPを実践している団体についてご記入ください。

A	ご回答者のお名前		ご連絡先 (電話番号)	
B	ご回答者のご所属・役職			
C	SBPに取り組む団体名	【例】「〇〇高校SBP」「〇〇地域〇〇クラブ」		
D	SBPの団体組成単位 (1つに〇)	1. 市町村・広域市町村圏等の地域単位で組成された団体 2. 任意の範囲・主体によって組成された団体 3. 特定の高校単位で組成された団体		

「D」で3を選択された方は、以下のE～Iにお答えください。 ← 「D」で1、2を選択された方は問2にお進みください

E	SBPの活動形態 (1つに〇)	1. 高校の有志生徒による取組 2. 高校の部活動による取組 3. 必修授業等、全校・全科的な取組 4. 選択授業における取組 5. その他（具体的に： _____ ）	
F	実践高校名	1. 都道府県立 2. 市町村立 3. 私立	⇒学校名： _____ 高等学校
G	参加生徒の所属学科 (あてはまるものを全てに〇)	1. 普通科 2. 農業科 3. 工業科 4. 商業科 5. 水産科 6. 家庭科 7. 看護科 8. 情報科 9. 福祉科 10. その他専門学科（ _____ ） 11. 総合学科	
H	全校生徒数 (平成29年度)	_____ 人（※平成29年12月末日現在の数をご記入ください）	
I	生徒の主な進路 (1つに〇)	1. 多くの生徒が四年制大学に進学 2. 多くの生徒が大学、短大、専門学校等に進学 3. 進学する生徒と就職する生徒が半々程 4. ほとんどの生徒が就職する 5. その他（ _____ ）	

問2 あなたは、SBPにいつから関わり始めましたか。以下のいずれかに〇をご記入ください。

1. 導入・立ち上げ時から	2. 導入・立ち上げ後、1年以内
3. 導入・立ち上げ後、2年以内	4. 導入・立ち上げ後、2年以上後から
5. 導入・立ち上げ時期を知らない	

問3 あなたがSBPに関わっている理由について、当てはまるものすべてに〇をつけてください。

1. 若者の力で地域の課題を解決したいから	2. 若者の力で地域の新たな魅力をつくりたいから
3. 若者を核とした地域人材の新たな関係を構築したいから	4. 地域を担う若者を育成したいから
5. 生徒（地域の若者）との新たな関係を構築したいから	6. 生徒（地域の若者）から依頼されたから
7. SBP関係者（大人・教員）から依頼されたから	8. 自己の研鑽・成長のため
9. 新たな教育手法を習得したいから	10. 仕事（教育内容等）の成果を実感・実践したい
11. 地域人材の新たな育成手法を習得したいから	12. 上長（管理監督者）から指示・指名されたから

13. その他（具体的に： _____ ）	14. 特になし
-----------------------	----------

**1. あなたの地域における、SBPの「導入・立ち上げ時」のことについてお伺いします。**

問4 あなたの地域でSBPの取組を初めて導入・実践した当時の状況についてご記入下さい。

※複数のプロジェクトに同時に取り組まれていた場合は、任意の主たるプロジェクトの1つについてご回答ください。  
 ※立ち上げ当時のことについて、経緯不明等によりご回答が難しい場合は、問9にお進みください。

プロジェクト名	【例】〇〇焼きプロジェクト	プロジェクト 開始年	(西暦)	年
プロジェクトのテーマ 対象とした地域課題 (具体的に記入ください)				
プロジェクトテーマの 選定経緯 (最もあてはまる1つに○)	1. 地元の企業・地域団体等からの発案	2. 生徒からの発案		
	3. 校長・教職員からの発案	4. 他校の先行事例の模倣・応用		
	5. その他 ( _____ )			
SBPの団体組成単位・ 活動形態の変化 (自由記述)	問1でご回答いただいた「D. SBPの団体組成単位」と「E. SBPの活動形態」が、現在と「導入・立ち上げ時」で異なる場合、その変化をご記入ください。 (例：現在は複数校の高校生が参加する地域単位の活動であるが、導入当初は高校単位であった現在では選択科目での活動も導入しているが、当初は部活動としてスタートした)			

問5 あなたの地域において、SBPに取り組むことをはじめに発案・主導したのは誰ですか（同時に複数人の発意による場合は、あてはまるものすべてに○）

※一般社団法人未来の大人応援プロジェクトの岸川政之氏による講演が主たる導入契機である場合、岸川氏の講演会開催を発案・主導した人をご回答ください。

1. 学校長	2. 教職員
3. 自治体首長	4. 自治体職員（教育委員会）
5. 自治体職員（教育委員会以外）	6. 地元商工団体
7. 地元民間企業	8. 地元活動団体（NPO・ボランティア団体等）
9. 生徒・保護者	10. その他 ( _____ )

問6 あなたの地域でSBPを導入した当時、SBPに期待していたこと（されていたこと）は何ですか。（重要なものから最大5つに○）

地域	1. 地域が抱えている課題への取組・解決の促進	2. 地域資源の発掘による新規事業・商品創出
	3. 地域に留まる、戻ってくる生徒数の増加	4. 高校生を巻き込んだ地域活動の活性化
	5. 地元企業の活性化による地域活性化	6. 地元企業への就業者数増
	7. 地域住民の意欲・行動の変革	8. 自治体職員の意欲・行動の変革
生徒	9. 生徒の学びの機会の充実	10. 特色ある活動による生徒の進学実績向上
	11. 特色ある活動による生徒の就職実績向上	12. SBP参加生徒以外（全校生徒）の意識向上

学校・教員	13. 教職員の意欲・教育スキルの向上	14. 学校の魅力向上による他地域からの入学者数増
	15. 学校の魅力向上による地元出身の入学者数増	16. 保護者からの学校評価の向上
	17. 地域からの学校評価の向上	
	18. その他（	）

問7 あなたの地域において SBP を立ち上げた当手を振り返っていただき、以下のそれぞれの要因について教えてください。（それぞれあてはまるものすべてに○）

- ① これがなければ立ち上げはできなかったと思われる「①必須要因」  
 ② 必須要因ではないが、これにより円滑に立ち上げができたと思われる「②促進要因」  
 ③ これがあれば、より円滑に立ち上げができたと思われる「③希望要因」

		①	②	③		①	②	③
地域	1. 生徒の自発的な意志	○			高 校 ・ 高 校	13. 生徒の自発的な意志		
	1. 地元商工団体のリーダーシップ					14. 保護者の理解・協力		
	2. 地元商工団体の理解・参画					15. 教職員のリーダーシップ		
	3. 地元民間企業のリーダーシップ					16. 教職員の理解		
	4. 地元民間企業の理解・参画					17. 学校長のリーダーシップ		
	5. 地元地域団体のリーダーシップ					18. 学校事務職員の協力		
行政	6. 地元地域団体の理解・参画				そ の 他	19. 学校設備・機材等		
	7. 地元教育委員会のリーダーシップ					20. 学校の独自予算		
	8. 地元教育委員会の理解・参画					21. 外部アドバイザーの協力		
	9. 自治体首長のリーダーシップ					22. コーディネーターの存在		
	10. 自治体職員の理解					23. 地域外の企業の協力		
	11. SBP担当職員・所管課の配置					その他（	）	
12. SBP関連予算の獲得				その他（	）			

問8 あなたの地域における SBP の導入、定着において、課題・障壁となったものは何ですか。（重要なものから最大3つに○）

1. プロジェクトの組成（テーマ設定・体制づくり等）	2. プロジェクトの進捗管理の方法が不明
3. 推進の主体となる組織・人物の設定	4. 活動の継続性（属人性）
5. 活動に必要な予算（活動資金）の獲得	6. 生徒の学びの機会の担保
7. 参加生徒の確保	8. 教職員の指導体制・スキル
9. 学校と地域・企業を繋ぐコーディネーターの不在	10. 関係者間の意識の統一
11. 連携先の適切な選定	12. 地域社会とのネットワーク・接点の不足
13. 企業とのネットワーク・接点の不足	14. 教職員からの理解の獲得
15. 地域社会からの理解の獲得	16. 行政からの理解の獲得
17. その他（	）

**2. あなたの地域における、現在の SBP の活動についてお伺いします。**

問9 あなたの地域で現在取り組んでいる SBP の (1) プロジェクト名、(2) 概要をご記入ください。なお、複数のプロジェクトがある場合は、現在最も注力している代表的なプロジェクト1つをご記入ください。  
※問4でご回答いただいたプロジェクトが該当する場合は「プロジェクトテーマ」の欄に「問4と同一」とご記入ください。

プロジェクト名	【例】〇〇焼きプロジェクト	プロジェクト 開始年	(西暦)	年
プロジェクトのテーマ 対象とした地域課題 (具体的に記入ください)				
プロジェクトテーマの 選定経緯 (1つに〇)	1. 地元の企業・地域団体等からの発案	2. 生徒からの発案		
	3. 校長・教職員からの発案	4. 他校の先行事例の模倣・応用		
	5. その他 ( )			

問10 問9で回答されたプロジェクトのテーマ選定にあたって、以下の観点についてどの程度重視されていますか。以下のそれぞれについて、いずれかに〇をつけてください。

	とても 重視している	やや 重視している	あまり 重視していない	まったく 重視していない
1. 地域課題、地域の困り事に対応しているか	1	2	3	4
2. 地域固有の歴史・資源を活かしたものが	1	2	3	4
3. 生徒と地域社会との関わりが深まるか	1	2	3	4
4. 生徒の地域への興味・関心が向上するか	1	2	3	4
5. 生徒の将来的な地元定着に寄与するか	1	2	3	4
6. 日常で得がたい学びを関係者が得られるか	1	2	3	4
7. 生徒の意欲や関心に沿ったものが	1	2	3	4
8. ビジネスの手法を学べるか	1	2	3	4
9. ビジネスとして成立見込みがあるか	1	2	3	4
10. 確実に実行できる体制が組めるか	1	2	3	4
11. 中期的な活動の継続性を保てそうか	1	2	3	4

問11 問9で回答されたプロジェクトに参画する生徒を募る際の打診方法について、以下より、当てはまるものすべてに〇をつけてください。

1. 意欲のある生徒の自発	2. 教員から生徒に個別打診
3. 教員から保護者に個別打診	4. 先輩生徒から個別打診した
5. 教員以外の大人から生徒に個別打診した	6. その他 (具体的に： )

問12 問9で回答されたプロジェクトに参画する大人 (地域関係者や教職員) の協力意識の醸成や連携を進めるにあたって実施したことについて、当てはまるものすべてに〇をつけてください。

1. SBPの説明 (外部講師による講演等) の機会を設けた	2. SBPに関する研修に参加してもらった
3. 定期的な意見交換の場を設けた	4. SBPの成果発表の際に来てもらった
5. その他 (具体的に： )	6. 特に実施していない

問13 SBP を実施する団体の体制についてお答えください。また、活動資金（収入）の構成についてお答えください。

【団体の体制】（あてはまるもの1つに○）

1. 教職員が顧問（担当）となっている	} 【1～3にご回答の方のみ】	主担当：（ ）名	
2. 地域の大人（行政職員含む）が顧問となっている			サポート：（ ）名
3. 「1」「2」のどちらもいる			
4. 顧問（担当）と呼べる大人はいない			
5. その他（ ）		SBP参加生徒数 約（ ）名	

【活動資金（収入）の構成】（あてはまるものすべてに○）

1. 商品売上等の事業収入	2. 会費
3. 外部資金（補助金等）	4. 高校の各種予算
5. 企業・地域団体等の負担金	6. 生徒負担金
7. 寄付金	8. その他（ ）

問14 現在取り組んでいる SBP において、その実践において必要になる事柄（やること）について、（1）現在役割・機能を担っている主体、および（2）今後役割・機能を担ってほしい主体それぞれについて、それぞれ示された主体のうち、最もあてはまる主体に◎、次に当てはまる主体に○をつけてください。（◎、○の両方を記入してください。）

なお、回答者ご本人と同じ対象（例：回答者が校長先生の場合における「校長」の欄）の場合も含めてご回答下さい。

	(1) 現在役割・機能を担っている主体					(2) 今後役割・機能を担ってほしい主体 (現在果たしている役割も含む)						
	(業界団体・企業・NPO等)	民間組織・地域団体等	校長	担当教員・顧問	市町村教育委員会	(企業・産業振興部局等) 自治体	(業界団体・企業・NPO等)	民間組織・地域団体等	校長	担当教員・顧問	市町村教育委員会	(企業・産業振興部局等) 自治体
例：SBPテーマの提案・選定	◎			○			◎					○
SBPテーマの提案・選定												
SBPテーマに応じた体制づくりの牽引												
SBPテーマに応じた予算の獲得・確保												
SBP参加生徒の募集・確保												
SBP参加・協力する大人・教員の確保												
SBPの進捗管理（生徒の伴走支援）												
SBPの内容充実に向けた指導												
SBPの連携体制・円滑な意思疎通												
SBP実行に必要な連携先の開拓/協力要請												
SBPに対する地域の大人の理解・協力醸成												
SBPに対する高校教職員の理解・協力醸成												
SBPに対する地元自治体の理解・協力醸成												
SBP関連有識者・専門家の紹介												

問15 現在取り組んでいる SBP の実践プロセスにおいて、その活動意義や実践効果を高めるうえで重要な要素として以下の各項目をどのように捉えていますか。以下の各項目について、いずれかに○をつけてください。

	とても重要	やや重要	あまり重要ではない	まったく重要ではない
1. 地域課題解決を目的とするテーマ・活動であること	1	2	3	4
2. 地域資源を活用するテーマ・活動であること	1	2	3	4
3. 生徒主体で決めたテーマ・活動であること	1	2	3	4
4. 高校以外の主体が主導・牽引する体制があること	1	2	3	4
5. 生徒が自らの考えを主張する機会があること	1	2	3	4
6. 生徒が自らの活動をプレゼンする機会があること	1	2	3	4
7. 生徒同士で対話を深める機会があること	1	2	3	4
8. 地域の大人と交流・議論・交渉する機会があること	1	2	3	4
9. 企業と交流・議論・交渉する機会があること	1	2	3	4
10. 地域の産業を理解・経験する機会があること	1	2	3	4
11. 有名企業、大企業と交流する機会があること	1	2	3	4
12. ビジネスの実戦経験を積むこと	1	2	3	4
13. 活動の収支を把握・共有すること	1	2	3	4

※ 上記以外で、SBPの実践プロセスで、その活動意義や実践効果を高めるうえで重要な要素があればご自由にご記入ください。どんな些細なことでも構いません。

問16 SBP のプロジェクト組成における留意点について、以下の観点ごとに、自由記述でお答えください。

(1) 生徒の学びの機会を最大化する上での留意点	
(2) SBP 参加生徒に指導・助言する上での留意点	
(3) 団体の体制づくり、関係者の連携における留意点	
(4) 地域での協力・定着(活動の継続)に向けた留意点	
(5) 収益を扱う上での留意点	

問17 現在取り組んでいる SBP を通じたご自身の成長実感についてどのように捉えていますか。(最もあてはまるもの1つに○、下段にはその理由を自由記入)

1. 成長している	2. やや成長している
3. どちらともいえない	4. あまり成長していない
5. 成長していない	
上記の回答理由(成長した側面・理由、成長していないと思う理由)	

問18 現在取り組んでいる SBP に参加した生徒の成長・変化について、次のそれぞれの観点から、5段階評価であてはまるものをお答えください。(参加した生徒全体を俯瞰した立場での評価)

		成長している	どちらかといえば成長している	どちらともいえない	どちらかといえば成長していない	成長していない
主体性	1. 物事に進んで取り組む力(主体性)	1	2	3	4	5
	2. 目的を設定し、確実に行動する力(行動力)	1	2	3	4	5
	3. 現状を分析し、目的や課題を明らかにする力(課題設定力)	1	2	3	4	5
	4. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力(計画力)	1	2	3	4	5
	5. 忍耐強く物事に取り組む力(粘り強さ)	1	2	3	4	5
協働性	6. 他者と協力する力(協働性)	1	2	3	4	5
	7. 自分とは異なる意見や価値を尊重する力(受容力)	1	2	3	4	5
	8. 相手の意見を丁寧に聴く力(対話力)	1	2	3	4	5
	9. 自分の意見をわかりやすく伝える力(表現力)	1	2	3	4	5
探究性	10. 問題意識を持ち、聞いたり調べたりする力(探究性)	1	2	3	4	5
	11. 集めた情報を、課題の制約や条件に照らして、選択する力(情報活用)	1	2	3	4	5
	12. 人の発表に対して質問や意見をいう力(批判的思考力)	1	2	3	4	5
	13. 自分を客観的に理解する力(省察力)	1	2	3	4	5
社会性	14. 社会のルールやマナーを守る力(規律性)	1	2	3	4	5
	15. 自分の住んでいる地域に関わりたいという意欲(地域への愛着)	1	2	3	4	5
	16. 自分の住んでいる地域に住み続けたいという意識(地域への愛着)	1	2	3	4	5
	17. 社会をよりよくするため、社会における問題に関与する意欲(社会参画意識)	1	2	3	4	5
その他	18. 教科学力	1	2	3	4	5
	19. 学習に対する意欲	1	2	3	4	5
	20. 自らのキャリアを描き、選択していく力	1	2	3	4	5
総合	21. 総合的な成長実感	1	2	3	4	5

### 3. SBP の継続・推進に係る効果・課題等についてお伺いします。

問19 あなたの地域では今後も SBP を継続していく意向はありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 一層の推進を図りたい	2. 現状の水準を維持したい
3. 縮小・再検討を図りたい	4. 取組の終了を検討したい

問20 これまで取り組んできた SBP による効果として実感していることをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

地域	1. 地域が抱えている課題への取組・解決の促進	2. 地域資源の発掘による新規事業・商品創出
	3. 地元に残る、戻ってくる生徒数の増加	4. 高校生を巻き込んだ地域活動の活性化
	5. 地元企業の活性化による地域活性化	6. 地元企業への就業者数増
	7. 地域住民の意欲・行動の変革	8. 自治体職員の意欲・行動の変革
生徒	9. 生徒の学びの機会の充実	10. 特色ある活動による生徒の進学実績向上
	11. 特色ある活動による生徒の就職実績向上	12. SBP参加生徒以外(全校生徒)の意識向上
学校・教員	13. 教職員の意欲・教育スキルの向上	14. 学校の魅力向上による他地域からの入学者数増
	15. 学校の魅力向上による地元出身の入学者数増	16. 保護者からの学校評価の向上
	17. 地域からの学校評価の向上	
	18. その他 ( )	

問21 SBP 推進に係る現状の課題についてお答えください。(重要なものから最大3つに○)

1. プロジェクトの組成(テーマ設定・体制づくり等)	2. プロジェクトの進捗管理の方法が不明
3. 推進の主体となる組織・人物の設定	4. 活動の継続性(属人性)
5. 活動に必要な予算(活動資金)の獲得	6. 生徒の学びの機会の担保
7. 参加生徒の確保	8. 教職員の指導体制・スキル
9. 学校と地域・企業を繋ぐコーディネーターの不在	10. 関係者間の意識の統一
11. 連携先の適切な選定	12. 地域社会とのネットワーク・接点の不足
13. 企業とのネットワーク・接点の不足	14. 教職員からの理解の獲得
15. 地域社会からの理解の獲得	16. 行政からの理解の獲得
17. その他 ( )	

問22 あなたの地域において SBP を推進していく上で期待する支援策をお答えください。(重要なものから最大3つに○)

1. 他校の取組事例の紹介	2. SBPの効果・成果の可視化
3. SBP同志の情報共有促進	4. 地域の大人・教員向け研修会(実践方法の習得)
5. 都道府県教育委員会の理解・協力	6. 市町村教育委員会の理解・協力
7. 市町村長の理解・協力	8. コーディネーターの配置(中間団体の存在)
9. 活動に必要な予算(活動資金)の支援	10. 活動テーマに沿った連携・協力先の紹介
11. その他 ( )	

**4. 平成 29 年 8 月に開催された「第 2 回全国高校生 SBP 交流フェア」についてお伺いします。**

問23 「第 2 回全国高校生 SBP 交流フェア」に参加しましたか。(あてはまるもの 1 つに○)

- |                     |                         |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 参加して、当団体の活動を発表した | 2. 参加したが、当団体の活動は発表していない |
| 3. 参加していない          |                         |

問24 「第 2 回全国高校生 SBP 交流フェア」の満足度についてお答えください。(あてはまるもの 1 つに○)

- |          |         |            |         |       |
|----------|---------|------------|---------|-------|
| 1. とても満足 | 2. やや満足 | 3. どちらでもない | 4. やや不満 | 5. 不満 |
|----------|---------|------------|---------|-------|

問25 今後の「全国高校生 SBP 交流フェア」において、より充実を期待する機能についてお答えください。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| 1. 生徒同士の交流             | 2. 教職員、スタッフ同士の交流    |
| 3. 協賛企業との交流            | 4. 企業による講演、ワークショップ等 |
| 5. 取組に関する個別相談の機会       | 6. 生徒が発表する機会        |
| 7. 各校による取組の紹介          | 8. 各校の取組を評価する機会     |
| 9. 自地域内の関係者とのチームづくりの機会 | 10. その他 ( )         |

※ 上記以外で、「全国高校生SBP交流フェア」に対するご意見、運営に対するアドバイスがありましたらご自由に記入ください。

--

問26 平成 30 年 8 月には「第 3 回全国高校生 SBP 交流フェア」の開催を計画しております。貴団体ではこのフェアに参加する意向はありますか。(最もあてはまるもの 1 つに○)

- |                      |                          |
|----------------------|--------------------------|
| 1. 是非参加したいと思っている     | 2. 日程や生徒の意向などが合致すれば参加したい |
| 3. 現段階では特段の意向は持っていない | 4. 特に参加したいと思わない          |

～ 以上でアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました ～

アンケート調査票は、同封の返信用封筒に入れて、  
**2月16日(金)まで**にご投函いただきますようお願い申し上げます。



**SBP の導入・推進に係る効果・課題等についてお伺いします。**

問4 あなたの地域では今後 SBP をいつ頃本格的に導入・開始していきたいと考えていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 1年以内には導入・開始したい	2. 2～3年以内に導入・開始したい
3. 近い将来、環境が整えば導入・開始したい	4. 導入・開始できない(したくない)

問5 あなたの地域で SBP の導入を検討・試行するにあたり、SBP による効果として期待していることをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

地域	1. 地域が抱えている課題への取組・解決の促進	2. 地域資源の発掘による新規事業・商品創出
	3. 地元に残る、戻ってくる生徒数の増加	4. 高校生を巻き込んだ地域活動の活性化
	5. 地元企業の活性化による地域活性化	6. 地元企業への就職者数増
	7. 地域住民の意欲・行動の変革	8. 自治体職員の意欲・行動の変革
生徒	9. 生徒の学びの機会の充実	10. 特色ある活動による生徒の進学実績向上
	11. 特色ある活動による生徒の就職実績向上	12. SBP参加生徒以外(全校生徒)の意欲向上
学校・教員	13. 教職員の意欲・教育スキルの向上	14. 学校の魅力向上による他地域からの入学者数増
	15. 学校の魅力向上による地元出身の入学者数増	16. 保護者からの学校評価の向上
	17. 地域からの学校評価の向上	
	18. その他( )	

問6 あなたの地域における SBP 導入・推進に係る現状の課題についてお答えください。(重要なものから最大3つに○)

1. プロジェクトの組成(テーマ設定・体制づくり等)	2. プロジェクトの進捗管理の方法が不明
3. 推進の主体となる組織・人物の設定	4. 活動の継続性(風人性)
5. 活動に必要な予算(活動資金)の獲得	6. 生徒の学びの機会の担保
7. 参加生徒の確保	8. 教職員の指導体制・スキル
9. 学校と地域・企業を繋ぐコーディネーターの不在	10. 関係者間の意識の統一
11. 連携先の適切な選定	12. 地域社会とのネットワーク・接点の不足
13. 企業とのネットワーク・接点の不足	14. 教職員からの理解の獲得
15. 地域社会からの理解の獲得	16. 行政からの理解の獲得
17. その他( )	

問7 あなたの地域において SBP を導入・推進していく上で期待する支援策をお答えください。(重要なものから最大3つに○)

1. 他校の取組事例の紹介	2. SBPの効果・成果の可視化
3. SBP同志の情報共有促進	4. 地域の大人・教員向け研修会(実践方法の習得)
5. 都道府県教育委員会の理解・協力	6. 市町村教育委員会の理解・協力
7. 市町村長の理解・協力	8. コーディネーターの配置(中間団体の存在)
9. 活動に必要な予算(活動資金)の支援	10. 活動テーマに沿った連携・協力先の紹介
11. その他( )	

～ 以上でアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました ～

## アンケート調査票（SBP 参加生徒用） 【調査票 B】

この調査は、高校生が地域の課題を実際にビジネスの手法を用いて地元自治体や産業界と連携して解決していく取組「地域ビジネス創出事業（SBP：Social Business Project）」に参加している生徒の方々にご回答いただくものです。

問1 あなた自身のことについて教えてください。

A	あなたの学年	年生	あなたの学科・ コース	科	J-入
B	あなたのご出身 (1つに〇)	1. 高校所在地と同じ市町村 2. 高校所在地と異なる市町村(同都道府県内) 3. 高校所在地と異なる都道府県 4. 国外(海外)			
C	SBPIに取組む団体名	【例】「〇〇高校SBP」「〇〇地域〇〇クラブ」			
D	SBPの活動形態 (1つに〇)	1. 学校の外での取組み 2. 高校の有志生徒による取組 3. 高校の部活動による取組 4. 必修授業など、全校・全科での取組 5. 選択授業を選んだ生徒による取組 6. その他( )			

問2 あなたが SBP に関わった理由について、以下のうち、当てはまるものすべてに〇をつけてください。

1. 自分の成長のため	2. 楽しそうだったから
3. 何か打ちこめるものが欲しかったから	4. 地域社会に関わる活動がしたかったから
5. ビジネスに関わる活動がしたかったから	6. 大人と一緒に何かに取組む活動がしたかったから
7. 地域の課題解決に取組んでみたかったから	8. 地域の資源を使った商品開発をしたかったから
9. 将来、地域での就職を考えているから	10. 進学に有利だと思ったから
11. 活動している先輩の姿にあこがれて	12. 先生などの大人から誘われて
13. 友だちに誘われて	14. 保護者にすすめられて
15. なんとなく	16. その他( )

問3 SBP の活動の中で、あなたには次のような経験はどのくらいありますか。(それぞれ1つに〇)

	よくある	時々ある	あまりない	ほとんどない
1. 地域の課題について調べたり考えたりする機会	1	2	3	4
2. 地域にある仕事について調べたり考えたりする機会	1	2	3	4
3. 生徒同士で議論・対話する機会	1	2	3	4
4. 生徒同士で物事の進め方について話し合う機会	1	2	3	4
5. 自分(たち)の考え・意見を他人に伝える機会	1	2	3	4
6. 自分(たち)の考え・意見を人前で発表(プレゼン)する機会	1	2	3	4
7. 調べたことを整理し、まとめる機会	1	2	3	4
8. 学校の先生と交流・議論・交渉する機会	1	2	3	4
9. 地域の大人と交流・議論・交渉する機会	1	2	3	4
10. 企業と交流・議論・交渉する機会	1	2	3	4
11. ビジネスについて考える機会	1	2	3	4

問4 SBP の活動の中で、あなたには次のようなことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 信頼できる先生ができた	2. 信頼できる地域の大人ができた
3. 信頼できる友人ができた	4. 尊敬できる地域の大人ができた
5. 地域の仕事についてよく知ることができた	6. 地域の課題についてよく知ることができた

問5 現在取組んでいる SBP に参加しての、あなたご自身の成長・変化の実感について、次のそれぞれの観点から、5段階評価であてはまるものをお答えください。

		成長している	成長している めどがつかない	成長している めどがつかない とわからない	成長していない	成長していない
主体性	1. 物事に進んで取り組む力（主体性）	1	2	3	4	5
	2. 目的を設定し、確実に行動する力（行動力）	1	2	3	4	5
	3. 現状を分析し、目的や課題を明らかにする力（課題設定力）	1	2	3	4	5
	4. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力（計画力）	1	2	3	4	5
	5. 忍耐強く物事に取り組む力（粘り強さ）	1	2	3	4	5
協働性	6. 他者と協力する力（協働性）	1	2	3	4	5
	7. 自分とは異なる意見や価値を尊重する力（受容力）	1	2	3	4	5
	8. 相手の意見を丁寧に聴く力（対話力）	1	2	3	4	5
	9. 自分の意見をわかりやすく伝える力（表現力）	1	2	3	4	5
探究性	10. 問題意識を持ち、聞いたり調べたりする力（探究性）	1	2	3	4	5
	11. 集めた情報を、課題の制約や条件に照らして、取舍選択する力（情報活用力）	1	2	3	4	5
	12. 人の発表に対して質問や意見をいう力（批判的思考力）	1	2	3	4	5
	13. 自分を客観的に理解する力（省察力）	1	2	3	4	5
社会性	14. 社会のルールやマナーを守る力（規律性）	1	2	3	4	5
	15. 自分の住んでいる地域に関わりたいという意欲（地域への愛着）	1	2	3	4	5
	16. 自分の住んでいる地域に住み続けたいという意識（地域への愛着）	1	2	3	4	5
	17. 社会をよりよくするため、社会における問題に関与する意欲（社会参画意識）	1	2	3	4	5
その他	18. 教科学力	1	2	3	4	5
	19. 学習に対する意欲	1	2	3	4	5
	20. 自らのキャリアを描き、選択していく力	1	2	3	4	5
総合	21. 総合的な成長実感	1	2	3	4	5

問6 将来の進路に関する今のお考えについて、一番近いものを教えてください。(1つに○)

1. いま住んでいる地域（市町村）で働きたい	2. 進学などで地域（市町村）を出ても、いずれ戻ってきたい
3. 進学などで地域を出た後のことはまだ分からない	4. いま住んでいる地域（市町村）の外で働きたい
5. まったく分からない・考えたことがない	

～ 以上でアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました ～  
 回答したアンケート調査票は、SBP の顧問（ご担当教諭）にお渡しください。

**アンケート調査票（市町村教育委員会 教育長様用） 【調査票C】**

本調査票は、高校生が地域の課題を実際にビジネスの手法を用いて地元自治体や産業界と連携して解決していく取組（「地域ビジネス創出事業（SBP：Social Business Project）」）に関して、市町村教育委員会 教育長様のお考えをお伺いするものです。

問1 貴市町村並びに回答者ご本人についてご記入ください。

自治体名	（ ） 都・道・府・県 （ ） 市・町・村		
人口規模 (1つに○)	1. 1万人未満	2. 1万人以上5万人未満	
	3. 5万人以上10万人未満	4. 10万人以上30万人未満	5. 30万人以上
過去20年間における 市町村合併 有無	1. あり → 合併年（ ）年 2. なし		
貴市町村内の学校数 (中学校/高校/大学)	中学校数	高等学校数	大学数
	国公立（ ）校 私立（ ）校	国公立（ ）校 私立（ ）校	国公立（ ）校 私立（ ）校

問2 あなたは、貴市町村内の高校・高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組「SBP」に取組んでいることをご存じでしたか。(別添 参考1をご覧ください。)(あてはまるもの1つに○)

1. 実践者と面識があり、取組内容も知っている	2. 実践者と面識はないが、取組内容を知っていた
3. 取組内容は知らなかった(取組の存在は知っていた)	4. 取組内容・取組の存在ともに知らなかった

※ 以下、問3以降における、「高校」及び「高校生」という言葉は、「貴市町村内に立地するすべての高等学校及びそこに通学する高校生」としてご回答ください(貴市町村立高校に限りません)

問3 貴市町村において、高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組（SBP）を行った場合に、期待出来る波及効果をお答えください。(重要なものから最大5つに○)

地域	1. 地域が抱えている課題への取組・解決の促進 3. 地域に留まる、戻ってくる生徒数の増加 5. 地元企業の活性化による地域活性化 7. 地域住民の意欲・行動の変革	2. 地域資源の発掘による新規事業・商品創出 4. 高校生を巻き込んだ地域活動の活性化 6. 地元企業への就職者数増 8. 自治体職員の意欲・行動の変革
生徒	9. 生徒の学びの機会の充実 11. 特色ある活動による生徒の就職実績向上	10. 特色ある活動による生徒の進学実績向上 12. SBP参加生徒以外(全校生徒)の意識向上
学校・教員	13. 教職員の意欲・教育スキルの向上 15. 学校の魅力向上による地元出身の入学者数増 17. 地域からの学校評価の向上	14. 学校の魅力向上による他地域からの入学者数増 16. 保護者からの学校評価の向上
	18. その他（ ）	

問4 今後、貴教育委員会として、高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組（SBP）を推進することについて、現段階でのお考えをお答えください。(最もあてはまるもの1つに○)

1. 地域での教育の一環として推進・取り組んでみたいと思う。	2. 意欲のある高校が独自の教育・取組として取り組むべきものだと思う。 (市町村教育委員会として推進すべきとは思わない)
3. 地域での教育、高校での教育のいずれでも推進すべきものではないと思う	

問5 問4で回答した選択肢に応じて、そう思う理由を、以下の選択肢からお答えください。(あてはまるものすべてに○)

【選択肢1を選んだ方：推進したいと思う理由】	【選択肢2・3を選んだ方：推進したくないと思う理由】
1. 地元高校生が地域の産業・ビジネスを早期に学ぶきっかけになるから 2. 地元高校生が地域の課題・実態に目を向けることが深い学びにつながるから 3. 高校生だからこそ解決できる地域課題があるから 4. 地元高校生の地元への定着・就職につながるから 5. 地域の大人の活力や学びにつながるから 6. 地元小中学生とのつながりや刺激が生まれるから 7. 地元小中学校との連携（中高連携のキャリア教育等）が期待できるから 8. 地域の児童・生徒・大人・高齢者の世代を超えた「縦・斜めの関係」ができるから 9. 取組に関心のある高校生が一定数いると思うから 10. 地元高校生と大人が連携した取組が既にあるから 11. その他（ ）	1. 地元高校生に地域産業・地域課題を学ぶ機会を市町村教育委員会が推進する意義はない・弱いから 2. 地元高校生にビジネスの手法を学ぶ機会を市町村教育委員会が推進する意義はない・弱いから 3. 高校生が解決できる地域課題があると思わないから 4. 地域の課題や大人の期待に応えるために、高校生の貴重な学習時間を費やすべきではないと思うから 5. 高校・高校生は、市町村教育委員会の政策・施策対象ではないから 6. 都道府県教育委員会・都道府県立高校との関係構築・連携が難しいと思うから 7. 関心のある高校生が集まらないと思うから 8. 活動を推進・継続できる人材（大人、指導者）や資金が整わないと思うから 9. その他（ ）

問6 問4で選択肢1を選んだ方に伺います。貴教育委員会で高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組（SBP）を推進していく場合の課題をお答えください。(重要なものから最大3つに○)

1. プロジェクトの組成（テーマ設定・体制づくり等） 3. 推進の主体となる組織・人物の設定 5. 活動の継続性（属人性） 7. 生徒の学びの機会の担保 9. 地域の大人、高校教職員等の指導体制・スキル 11. 関係者間の意識の統一 13. 地元企業とのネットワーク・接点の不足 15. 地域社会からの理解の獲得 17. 都道府県教育委員会・都道府県立高校との関係構築 19. その他（ ）	2. プロジェクトの進捗管理の方法が不明 4. 貴市町村教育委員会内の担当職員の確保・配置 6. 活動に必要な予算（活動資金）の獲得 8. 参加生徒の確保 10. 高校生と地域・企業を繋ぐコーディネーターの不在 12. 地域社会とのネットワーク・接点の不足 14. 教育委員・保護者からの理解の獲得 16. 市町村長からの理解の獲得 18. 国の推進方針が不明確、浸透していない 19. その他（ ）
--	---

問7 問4で選択肢1を選んだ方に伺います。貴教育委員会で高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組（SBP）を推進する場合に出来る支援策をお答えください。(重要なものから最大3つに○)

1. 他地域・市町村での取組事例の紹介 3. SBP同志の情報共有促進 5. 都道府県教育委員会や市町村長の理解・協力につながる国の政策方針の提示 7. 活動に必要な予算（活動資金）の支援 9. その他（ ）	2. SBPの効果・成果の可視化 4. 地域の大人・教員向け研修会（実践方法の習得） 6. 高校や高校生と、地域の大人・企業・教育委員会等をつなぐコーディネーターの配置（中間団体の存在） 8. 活動テーマに沿った連携・協力先の紹介 9. その他（ ）
--	---

問8 高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組（SBP）について、ご自由にご意見をお書きください。

～ 以上でアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました ～

**アンケート調査票（市町村教育委員会 教育長様用） 【調査票C'】**

本調査票は、高校生が地域の課題を実際にビジネスの手法を用いて地元自治体や産業界と連携して解決していく取組（「地域ビジネス創出事業（SBP：Social Business Project）」）に関して、市町村教育委員会 教育長様のお考えをお伺いするものです。

問1 貴市町村並びに回答者ご本人についてご記入ください。

自治体名	（ ）都・道・府・県 （ ）市・町・村		
人口規模 (1つに○)	1. 1万人未満	2. 1万人以上5万人未満	
	3. 5万人以上10万人未満	4. 10万人以上30万人未満	5. 30万人以上
過去20年間における 市町村合併 有無	1. あり → 合併年（ ）年 2. なし		
貴市町村内の学校数 (中学校/高校/大学)	中学校数	高等学校数	大学数
	国公立（ ）校 私立（ ）校	国公立（ ）校 私立（ ）校	国公立（ ）校 私立（ ）校

問2 貴市町村内では、別添 参考1、2で紹介されているような「高校・高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組（SBP）」に取組んでいる例はありますか。（あてはまるもの1つに○）

1. 取り組んでいる（実践している）例がある・知っている 2. 取組を検討している例がある・知っている  
3. 取組の実践や検討をしている例は知らない

※ 以下、問3以降における、「高校」及び「高校生」という言葉は、「貴市町村内に立地するすべての高等学校及びそこに通学する高校生」としてご回答ください（貴市町村立高校に限りません）

問3 貴市町村において、高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組（SBP）を行った場合に、期待出来る波及効果をお答えください。（重要なものから最大5つに○）

地域	1. 地域が抱えている課題への取組・解決の促進 3. 地域に留まる、戻ってくる生徒数の増加 5. 地元企業の活性化による地域活性化 7. 地域住民の意欲・行動の変革	2. 地域資源の発掘による新規事業・商品創出 4. 高校生を巻き込んだ地域活動の活性化 6. 地元企業への就職者数増 8. 自治体職員の意欲・行動の変革
生徒	9. 生徒の学びの機会の充実 11. 特色ある活動による生徒の就職実績向上	10. 特色ある活動による生徒の進学実績向上 12. SBP参加生徒以外（全校生徒）の意識向上
学校・教員	13. 教職員の意欲・教育スキルの向上 15. 学校の魅力向上による地元出身の入学者数増 17. 地域からの学校評価の向上	14. 学校の魅力向上による他地域からの入学者数増 16. 保護者からの学校評価の向上
	18. その他（ ）	

問4 今後、貴教育委員会として、高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組（SBP）を推進することについて、現段階でのお考えをお答えください。（最もあてはまるもの1つに○）

1. 地域での教育の一環として推進・取り組んでみたいと思う。 2. 意欲のある高校が独自の教育・取組として取り組むべきものだと思う。  
3. 地域での教育、高校での教育のいずれでも推進すべきものではないと思う （市町村教育委員会として推進すべきとは思わない）

問5 問4で回答した選択肢に応じて、そう思う理由を、以下の選択肢からお答えください。(あてはまるものすべてに○)

【選択肢1を選んだ方：推進したいと思う理由】	【選択肢2・3を選んだ方：推進したくないと思う理由】
1. 地元高校生が地域の産業・ビジネスを早期に学ぶきっかけになるから 2. 地元高校生が地域の課題・実態に目を向けることが深い学びにつながるから 3. 高校生だからこそ解決できる地域課題があるから 4. 地元高校生の地元への定着・就職につながるから 5. 地域の大人の活力や学びにつながるから 6. 地元小中学生とのつながりや刺激が生まれるから 7. 地元小中学校との連携（中高連携のキャリア教育等）が期待できるから 8. 地域の児童・生徒・大人・高齢者の世代を超えた「縦・斜めの関係」ができるから 9. 取組に関心のある高校生が一定数いると思うから 10. 地元高校生と大人が連携した取組が既にあるから 11. その他（ ）	1. 地元高校生に地域産業・地域課題を学ぶ機会を市町村教育委員会が推進する意義はない・弱いから 2. 地元高校生にビジネスの手法を学ぶ機会を市町村教育委員会が推進する意義はない・弱いから 3. 高校生が解決できる地域課題があると思わないから 4. 地域の課題や大人の期待に応えるために、高校生の貴重な学習時間を費やすべきではないと思うから 5. 高校・高校生は、市町村教育委員会の政策・施策対象ではないから 6. 都道府県教育委員会・都道府県立高校との関係構築・連携が難しいと思うから 7. 関心のある高校生が集まらないと思うから 8. 活動を推進・継続できる人材（大人、指導者）や資金が整わないと思うから 9. その他（ ）

問6 問4で選択肢1を選んだ方に伺います。貴教育委員会で高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組（SBP）を推進していく場合の課題をお答えください。(重要なものから最大3つに○)

1. プロジェクトの組成（テーマ設定・体制づくり等）	2. プロジェクトの進捗管理の方法が不明
3. 推進の主体となる組織・人物の設定	4. 貴市町村教育委員会内の担当職員の確保・配置
5. 活動の継続性（属人性）	6. 活動に必要な予算（活動資金）の獲得
7. 生徒の学びの機会の担保	8. 参加生徒の確保
9. 地域の大人、高校教職員等の指導体制・スキル	10. 高校生と地域・企業を繋ぐコーディネーターの不在
11. 関係者間の意識の統一	12. 地域社会とのネットワーク・接点の不足
13. 地元企業とのネットワーク・接点の不足	14. 教育委員・保護者からの理解の獲得
15. 地域社会からの理解の獲得	16. 市町村長からの理解の獲得
17. 都道府県教育委員会・都道府県立高校との関係構築	18. 国の推進方針が不明確、浸透していない
19. その他（ ）	

問7 問4で選択肢1を選んだ方に伺います。貴教育委員会で高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組（SBP）を推進する場合に出来る支援策をお答えください。(重要なものから最大3つに○)

1. 他地域・市町村での取組事例の紹介	2. SBPの効果・成果の可視化
3. SBP同志の情報共有促進	4. 地域の大人・教員向け研修会（実践方法の習得）
5. 都道府県教育委員会や市町村長の理解・協力につながる国の政策方針の提示	6. 高校や高校生と、地域の大人・企業・教育委員会等をつなぐコーディネーターの配置（中間団体の存在）
7. 活動に必要な予算（活動資金）の支援	8. 活動テーマに沿った連携・協力先の紹介
9. その他（ ）	

問8 高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組（SBP）について、ご自由にご意見をお書きください。

～ 以上でアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました ～

## アンケート調査票（市町村長様 用） 【調査票 D】

本調査票は、高校生が地域の課題を実際にビジネスの手法を用いて地元自治体や産業界と連携して解決していく取組（「地域ビジネス創出事業（SBP：Social Business Project）」）に関して、市町村長様のお考えをお伺いするものです。

問1 貴市町村並びに回答者ご本人についてご記入ください。

自治体名	（ ）都・道・府・県 （ ）市・町・村	
人口規模 (1つに○)	1. 1万人未満	2. 1万人以上5万人未満
	3. 5万人以上10万人未満	4. 10万人以上30万人未満 5. 30万人以上
過去20年間における 市町村合併 有無	1. あり → 合併年（ ）年 2. なし	
貴市町村の主要産業 (複数ある場合上位3つ)	1. ( )業	2. ( )業 3. ( )業

問2 あなたは、貴市町村内の高校・高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組「SBP」に取り組んでいることをご存じでしたか。(別添 参考1をご覧ください。)(あてはまるもの1つに○)

- |                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1. 実践者と面識があり、取組内容も知っている     | 2. 実践者と面識はないが、取組内容を知っていた |
| 3. 取組内容は知らなかった(取組の存在は知っていた) | 4. 取組内容・取組の存在ともに知らなかった   |

※ 以下、問3以降における、「高校」及び「高校生」という言葉は、「貴市町村内に立地するすべての高等学校及びそこに通学する高校生」としてご回答ください(貴市町村立高校に限られません)

問3 貴市町村において、高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組(SBP)を行った場合に、期待出来る波及効果をお答えください。(重要なものから最大5つに○)

地域	1. 地域が抱えている課題への取組・解決の促進 3. 地元に残る、戻ってくる生徒数の増加 5. 地元企業の活性化による地域活性化 7. 地域住民の意欲・行動の変革	2. 地域資源の発掘による新規事業・商品創出 4. 高校生を巻き込んだ地域活動の活性化 6. 地元企業への就職者数増 8. 自治体職員の意欲・行動の変革
生徒	9. 生徒の学びの機会の充実 11. 特色ある活動による生徒の就職実績向上	10. 特色ある活動による生徒の進学実績向上 12. SBP参加生徒以外(全校生徒)の意識向上
学校・教員	13. 教職員の意欲・教育スキルの向上 15. 学校の魅力向上による地元出身の入学者数増 17. 地域からの学校評価の向上	14. 学校の魅力向上による他地域からの入学者数増 16. 保護者からの学校評価の向上
	18. その他 ( )	

問4 今後、貴市町村として、高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組(SBP)を推進することについて、現段階でのお考えをお答えください。(最もあてはまるもの1つに○)

- |  |                                      |
|--|--------------------------------------|
| 1. 地域での教育の一環として推進・取り組んでみたいと思う。                               | 2. 地域の活性化策の一環として推進・取り組んでみたいと思う。      |
| 3. 意欲のある高校が独自の教育・取組として取り組むべきものだと思う。<br>(市町村として推進すべきものとは思わない) | 4. 地域での教育、高校での教育のいずれでも推進すべきものではないと思う |

問5 問4で回答した選択肢に応じて、そう思う理由を、以下の選択肢からお答えください。(あてはまるものすべてに○)

【選択肢1・2を選んだ方：推進したいと思う理由】	【選択肢3・4を選んだ方：推進したくないと思う理由】
1. 地元高校生が地域の産業・ビジネスを早期に学ぶきっかけになるから	1. 地元高校生に地域産業・地域課題を学ぶ機会を市町村が推進する意義はない・弱いから
2. 地元高校生が地域の課題・実態に目を向けることが深い学びにつながるから	2. 地元高校生にビジネスの手法を学ぶ機会を市町村が推進する意義はない・弱いから
3. 高校生だからこそ解決できる地域課題があるから	3. 高校生が解決できる地域課題があると思わないから
4. 地元高校生の地元への定着・就職につながるから	4. 地域の課題や大人の期待に応えるために、高校生の貴重な学習時間を費やすべきではないと思うから
5. 地域の大人の活力や学びにつながるから	5. 他地域の高校に通う高校生が多いため、地域での活動時間を確保できると思わないから
6. 地元小中学生とのつながりや刺激が生まれるから	6. 都道府県教育委員会・都道府県立高校との関係構築・連携が難しいと思うから
7. 地元企業・産業の活性化につながることを期待できるから	7. 関心のある高校生が集まらないと思うから
8. 地域の児童・生徒・大人・高齢者の世代を超えた「縦・斜めの関係」ができるから	8. 活動を推進・継続できる人材(大人、指導者)や資金が整わないと思うから
9. 取組に関心のある高校生が一定数いると思うから	9. その他( )
10. 地元高校生と大人が連携した取組が既にあるから	
11. その他( )	

問6 問4で選択肢1・2を選んだ方に伺います。貴市町村で高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組(SBP)を推進していく場合の課題をお答えください。(重要なものから最大3つに○)

1. プロジェクトの組成(テーマ設定・体制づくり等)	2. プロジェクトの進捗管理の方法が不明
3. 推進の主体となる組織・人物の設定	4. 貴市町村内の担当職員の確保・配置
5. 活動の継続性(属人性)	6. 活動に必要な予算(活動資金)の獲得
7. 生徒の学びの機会の担保	8. 参加生徒の確保
9. 地域の大人、高校教職員等の指導体制・スキル	10. 高校生と地域・企業を繋ぐコーディネーターの不在
11. 関係者間の意識の統一	12. 地域社会とのネットワーク・接点の不足
13. 地元企業とのネットワーク・接点の不足	14. 教育委員・保護者からの理解の獲得
15. 地域社会からの理解の獲得	16. 教育委員会からの理解の獲得
17. 都道府県教育委員会・都道府県立高校との関係構築	18. 国の推進方針が不明確、浸透していない
19. その他( )	

問7 問4で選択肢1・2を選んだ方に伺います。貴市町村で高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組(SBP)を推進する場合に出来る支援策をお答えください。(重要なものから最大3つに○)

1. 他地域・市町村での取組事例の紹介	2. SBPの効果・成果の可視化
3. SBP同志の情報共有促進	4. 地域の大人・教員向け研修会(実践方法の習得)
5. 都道府県教育委員会や市町村教育委員会の理解・協力につながる国の政策方針の提示	6. 高校や高校生と、地域の大人・企業・教育委員会等を つなぐコーディネーターの配置(中間団体の存在)
7. 活動に必要な予算(活動資金)の支援	8. 活動テーマに沿った連携・協力先の紹介
9. その他( )	

問8 高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組(SBP)について、ご自由にご意見をお書きください。

～ 以上でアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました ～

## アンケート調査票（市町村長様用） 【調査票D'】

本調査票は、高校生が地域の課題を実際にビジネスの手法を用いて地元自治体や産業界と連携して解決していく取組（「地域ビジネス創出事業（SBP：Social Business Project）」）に関して、市町村長様のお考えをお伺いするものです。

問1 貴市町村並びに回答者ご本人についてご記入ください。

自治体名	（ ）都・道・府・県 （ ）市・町・村	
人口規模 (1つに○)	1. 1万人未満 3. 5万人以上10万人未満	2. 1万人以上5万人未満 4. 10万人以上30万人未満 5. 30万人以上
過去20年間における 市町村合併 有無	1. あり → 合併年（ ）年 2. なし	
貴市町村の主要産業 (複数ある場合上位3つ)	1. ( )業	2. ( )業 3. ( )業

問2 貴市町村内では、別添 参考 1、2 で紹介されているような「高校・高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組（SBP）」に取組んでいる例はありますか。（あてはまるもの1つに○）

- |                              |                        |
|------------------------------|------------------------|
| 1. 取り組んでいる（実践している）例がある・知っている | 2. 取組を検討している例がある・知っている |
| 3. 取組の実践や検討をしている例は知らない       |                        |

※ 以下、問3以降における、「高校」及び「高校生」という言葉は、「貴市町村内に立地するすべての高等学校及びそこに通学する高校生」としてご回答ください（貴市町村立高校に限りません）

問3 貴市町村において、高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組（SBP）を行った場合に、期待出来る波及効果をお答えください。（重要なものから最大5つに○）

地域	1. 地域が抱えている課題への取組・解決の促進 3. 地元に残る、戻ってくる生徒数の増加 5. 地元企業の活性化による地域活性化 7. 地域住民の意欲・行動の変革	2. 地域資源の発掘による新規事業・商品創出 4. 高校生を巻き込んだ地域活動の活性化 6. 地元企業への就職者数増 8. 自治体職員の意欲・行動の変革
生徒	9. 生徒の学びの機会の充実 11. 特色ある活動による生徒の就職実績向上	10. 特色ある活動による生徒の進学実績向上 12. SBP参加生徒以外（全校生徒）の意識向上
学校・教員	13. 教職員の意欲・教育スキルの向上 15. 学校の魅力向上による地元出身の入学者数増 17. 地域からの学校評価の向上	14. 学校の魅力向上による他地域からの入学者数増 16. 保護者からの学校評価の向上
	18. その他（ ）	

問4 今後、貴市町村として、高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組（SBP）を推進することについて、現段階でのお考えをお答えください。（最もあてはまるもの1つに○）

- |  |                                      |
|--|--------------------------------------|
| 1. 地域での教育の一環として推進・取り組んでみたいと思う。                               | 2. 地域の活性化策の一環として推進・取り組んでみたいと思う。      |
| 3. 意欲のある高校が独自の教育・取組として取り組むべきものだと思う。<br>(市町村として推進すべきものとは思わない) | 4. 地域での教育、高校での教育のいずれでも推進すべきものではないと思う |

問5 問4で回答した選択肢に応じて、そう思う理由を、以下の選択肢からお答えください。(あてはまるものすべてに○)

【選択肢1・2を選んだ方：推進したいと思う理由】	【選択肢3・4を選んだ方：推進したくないと思う理由】
1. 地元高校生が地域の産業・ビジネスを早期に学ぶきっかけになるから	1. 地元高校生に地域産業・地域課題を学ぶ機会を市町村が推進する意義はない・弱いから
2. 地元高校生が地域の課題・実態に目を向けることが深い学びにつながるから	2. 地元高校生にビジネスの手法を学ぶ機会を市町村が推進する意義はない・弱いから
3. 高校生だからこそ解決できる地域課題があるから	3. 高校生が解決できる地域課題があると思わないから
4. 地元高校生の地元への定着・就職につながるから	4. 地域の課題や大人の期待に応えるために、高校生の貴重な学習時間を費やすべきではないと思うから
5. 地域の大人の活力や学びにつながるから	5. 他地域の高校に通う高校生が多いため、地域での活動時間を確保できると思わないから
6. 地元小中学生とのつながりや刺激が生まれるから	6. 都道府県教育委員会・都道府県立高校との関係構築・連携が難しいと思うから
7. 地元企業・産業の活性化につながることを期待できるから	7. 関心のある高校生が集まらないと思うから
8. 地域の児童・生徒・大人・高齢者の世代を超えた「縦・斜めの関係」ができるから	8. 活動を推進・継続できる人材(大人、指導者)や資金が整わないと思うから
9. 取組に関心のある高校生が一定数いると思うから	9. その他( )
10. 地元高校生と大人が連携した取組が既にあるから	
11. その他( )	

問6 問4で選択肢1・2を選んだ方に伺います。貴市町村で高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組(SBP)を推進していく場合の課題をお答えください。(重要なものから最大3つに○)

1. プロジェクトの組成(テーマ設定・体制づくり等)	2. プロジェクトの進捗管理の方法が不明
3. 推進の主体となる組織・人物の設定	4. 貴市町村内の担当職員の確保・配置
5. 活動の継続性(属人性)	6. 活動に必要な予算(活動資金)の獲得
7. 生徒の学びの機会の担保	8. 参加生徒の確保
9. 地域の大人、高校教職員等の指導体制・スキル	10. 高校生と地域・企業を繋ぐコーディネーターの不在
11. 関係者間の意識の統一	12. 地域社会とのネットワーク・接点の不足
13. 地元企業とのネットワーク・接点の不足	14. 教育委員・保護者からの理解の獲得
15. 地域社会からの理解の獲得	16. 教育委員会からの理解の獲得
17. 都道府県教育委員会・都道府県立高校との関係構築	18. 国の推進方針が不明確、浸透していない
19. その他( )	

問7 問4で選択肢1・2を選んだ方に伺います。貴市町村で高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組(SBP)を推進する場合に出来る支援策をお答えください。(重要なものから最大3つに○)

1. 他地域・市町村での取組事例の紹介	2. SBPの効果・成果の可視化
3. SBP同志の情報共有促進	4. 地域の大人・教員向け研修会(実践方法の習得)
5. 都道府県教育委員会や市町村教育委員会の理解・協力的につながる国の政策方針の提示	6. 高校や高校生と、地域の大人・企業・教育委員会等をつなぐコーディネーターの配置(中間団体の存在)
7. 活動に必要な予算(活動資金)の支援	8. 活動テーマに沿った連携・協力先の紹介
9. その他( )	

問8 高校生が地域課題をビジネスの方法を用いて解決する取組(SBP)について、ご自由にご意見をお書きください。

～ 以上でアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました ～

---

平成30年3月発行

**平成29年度地域政策等に関する調査研究**  
**-若者の学びを生かした地域ビジネス創出推進の在り方に関する調査研究-**  
**報告書**

発行 文部科学省 生涯学習局 参事官（連携推進・地域政策担当）付  
100-8959 東京都千代田区霞が関三丁目2番2号  
TEL：03-5253-4111 FAX：03-6734-3620

委託 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部  
〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー  
TEL：03-6733-1022 FAX：03-6733-1028

---